

# アヤメ

*Iris sanguinea*

アヤメ科

## 名前の由来

葉が美しく斜めにかさなっていることから、綾目を連想して名付けられたといわれる。外花被片にある網目状模様から織物の綾目を連想したという説もあるが、アヤメの名はかつてサトイモ科のショウブを指していたため、正しくないとされている。漢字名：菖蒲

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
ワシ・タカ  
鳥類

## 形態的特徴

茎は直立し、高さ30~80cmになる。葉は細長く根元から真っ直ぐのび、幅は5~12mmと狭い。花は茎（花茎）の頂に2~3個つき、青紫色。花の外側につく大きな3枚の外花被片の基部には、鮮黄色で青紫色の虎斑模様がある。花の内側にある小型の内花被片は、立ち上がり目立つ。

## 類似種と見分け方

ヒオウギアヤメ。

ヒオウギアヤメの内花被片は1cm内外と小さくて、立ち上がらない。また、葉の幅はより広く、基部が重なるようになる。



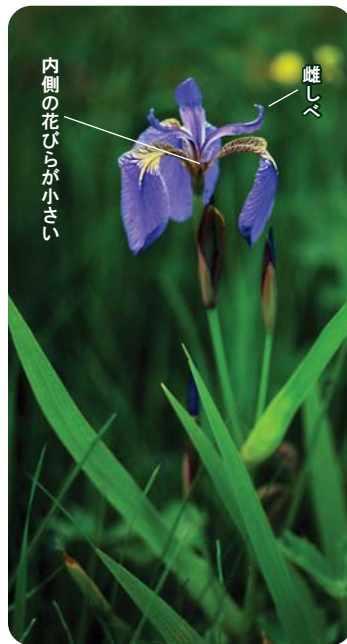
アヤメ



アヤメ。真上から見た様子



アヤメ



類似種のアヤメ



アヤメ。種子が落ちた後

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

## 生育環境・分布

日当たりのよい草原に生育する。

**分布：**国外分布は、朝鮮、中国東北部・シベリア東部。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい草原で見られる。河川敷や堤防でもしばしば群生する。



アヤメ。群生している様子。手前はエゾスカシユリ

## 生活史

**開花時期：**5月中旬～6月

**寿命：**多年草。

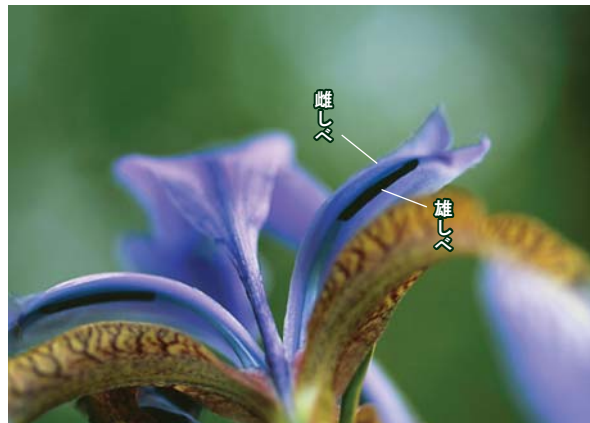
**開花までの年数：**不明

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。



アヤメ。ハチが蜜を吸いに来ている



アヤメ。虎縞模様のある外側の花びらと、雌しべと雄しべ。ハチが潜り込んで蜜を吸う時(左写真)、背に花粉がつく

## 興味深い話

■アヤメの漢字名である「菖蒲」はショウブとも読む。かつてアヤメは、まったくの別種でサトイモ科のショウブと、葉が似ていることで区別されておらず、菖蒲（あやめ）の漢字と呼び名は、サトイモ科のショウブの方を指していた。よって、江戸時代以前の記録や短歌で登場する「菖蒲（あやめ）」はすべてショウブのことを指す。江戸時代になってショウブは菖蒲（しょうぶ）、アヤメは花菖蒲（はなしょうぶ）という漢字と呼び名になった。18世紀になってようやく、「あやめ」という呼び名が、アヤメ属の植物を指すようになった。

■十勝地方などのアイヌ語で「チェペウコテキナ」という。また、足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）のアイヌ語では「イチャニウアパッポ」という。



アヤメ

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(鳥水辺)  
類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

### 参考文献

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅱ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001

「名前といわれ 野の草花図鑑1」杉村昇 偕成社 1985

「図説 花と樹の大事典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗 柏書房 1996

「生育環境別 日本野生植物館」奥田重俊 小学館 1997

「東北海道の植物」滝田謙讓 カトウ書館 1987

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976